

平成21年度第1回日本海スルメイカ長期漁況予報

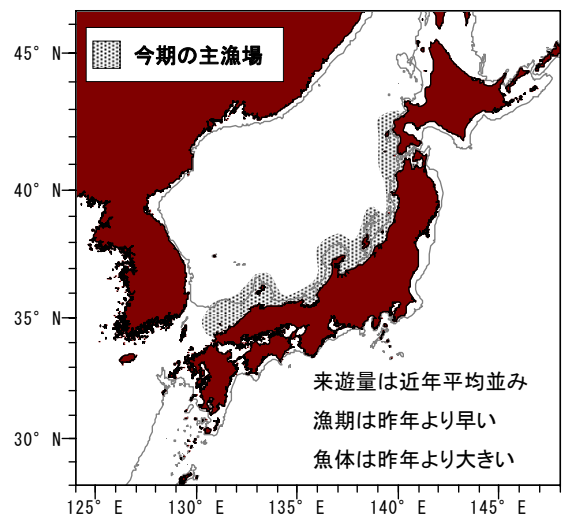
－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
日本海区水産研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(2009年5月～7月)のポイント

対象魚種：スルメイカ
対象海域：日本海
対象漁業：主にいか釣り漁業
対象魚群：主に秋季発生系群

- (1) 来遊量：近年平均並み。
- (2) 漁期・漁場：昨年より早く、近年平均並み。
- (3) 魚体の大きさ：昨年より大きく、近年平均並み。

* 近年は最近5年間(2004年～2008年)



問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課 沿岸資源班

担当：今井、和田、染川

電話：03-3502-8111(内線6800)、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/>

独立行政法人水産総合研究センター 日本海区水産研究所 業務推進部

電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/>

平成 21 年度第 1 回日本海スルメイカ長期漁況予報

今後の見通し（2009 年 5 月～7 月）

対象魚種：スルメイカ

対象海域：日本海

対象漁業：主にいか釣り漁業

対象魚群：主に秋季発生系群

- (1) 来遊量：近年平均並み。
- (2) 漁期・漁場：昨年より早く、近年平均並み。
- (3) 魚体の大きさ：昨年より大きく、近年平均並み。

* 近年は最近5年間(2004年～2008年)

I 漁況予報

日本海におけるスルメイカの資源調査結果（昨年 10 月～11 月の日本海スルメイカ稚仔分布調査、および今年 4 月のスルメイカ新規加入量調査）と漁況の経過を主要な情報として、今期（2009 年 5 月～7 月）の日本海におけるスルメイカの漁況を下記のとおり予測した。

【予測】

今期（2009 年 5 月～7 月）の日本海におけるスルメイカの漁況は、近年平均並みと予測される。また、漁期・漁場も昨年よりも早く、近年平均並みで推移し、魚体も昨年より大きく近年平均並みと予想される。

【情報】

- (1) 今年 4 月に実施した幼スルメイカの調査結果では、今期に漁獲加入すると予想される外套背長 5cm 以上のスルメイカの分布量は、近年平均並みであった。
- (2) 隠岐諸島北方から大和堆南沖に外套背長 10cm～15cm のスルメイカが多く採集された。
- (3) 対馬暖流域の水温は、今期間平年よりも「やや高め」に推移すると予測されている。
- (4) 2008 年 10 月～11 月のスルメイカ幼生の分布調査結果では、幼生の分布密度は 1990 年代以降の水準を維持しているものの、かなり低い値であった。
- (5) 2009 年 3 月のスルメイカ漁獲量は、近年平均を下回った。

II 説明

1. 調査結果

1) 4月におけるスルメイカの分布状況

いか釣り漁業では外套背長 15cm 以上のスルメイカが主な漁獲対象となる。したがって、漁獲対象前のスルメイカ（主に外套背長 2cm～10cm）の分布状況を事前（4月）に把握することで、今期の漁況を予測することが可能になる。

2009年4月に実施したスルメイカの新規加入量調査^{*1)}結果（図1）では、今期に漁獲対象となることが予想される外套背長 5cm 以上のスルメイカが、隠岐北方沖から大和堆南沖で採集された。一方、若狭湾および金沢沖では、外套背長 5cm 未満スルメイカ（冬季発生系群、主に9月以降に漁獲対象になる）が多く採集された（図1）。

1調査点あたりの平均採集個体数は 81.3 個体であり、近年平均（32.5 個体）および昨年（35.0 個体）を大きく上回った（図2）。しかし、今年は外套背長 5cm 未満スルメイカが占める割合が高く（図3）、今期に漁獲対象となる外套背長 5cm 以上の個体の平均採集個体数は 17.7 個体であり、近年平均（15.3 個体）並みであった（図2）。

また、補助的に実施した調査^{*1)}では、隠岐諸島北方から大和堆南沖に外套背長 10cm～15cm のスルメイカが多く採集された（図4）。この他、鳥取水試が4月に実施したイカ釣り調査でも北緯 36 度 00 分、東経 132 度 40 分の調査点で外套背長 10cm～15cm のスルメイカが多く漁獲されていた。

*1) 新規加入量調査：口径 10m～12m の表層トロール網を用いた採集調査。各調査点で3ノットの速度で30分間曳網して実施。また、2009年は補助的な調査として、LC ネット（口径 10m、目合い 4mm×4mm のモジ網）による採集調査も実施した。これらの調査では、主に外套背長 2～10cm のスルメイカが採集される。

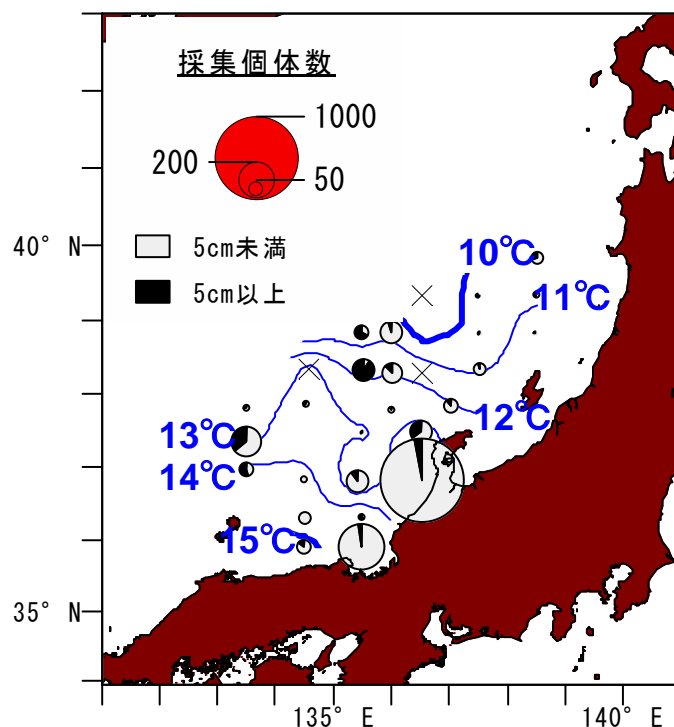


図1 2009年4月の表層トロールによるスルメイカの採集調査結果（○の面積は採集個体数、×は採集されなかった調査点）。表面水温分布を合わせて示す。

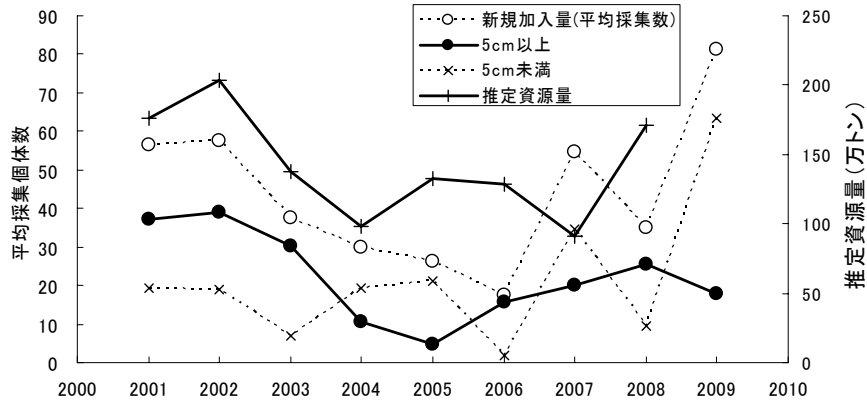


図2 表層トロール調査による平均採集個体数の経年変化

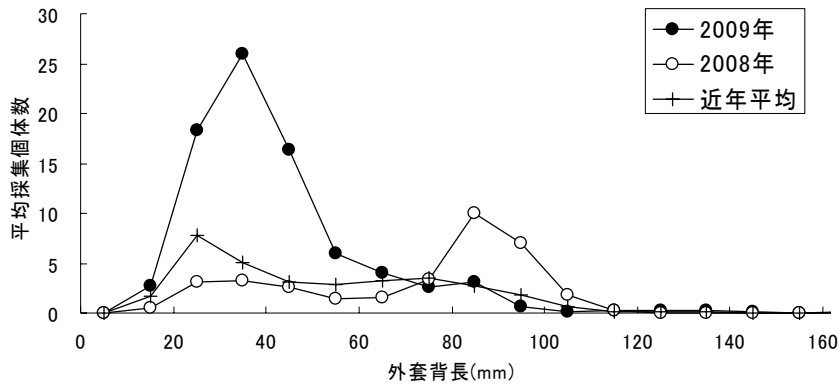


図3 表層トロール調査による外套背長階級別平均採集個体数

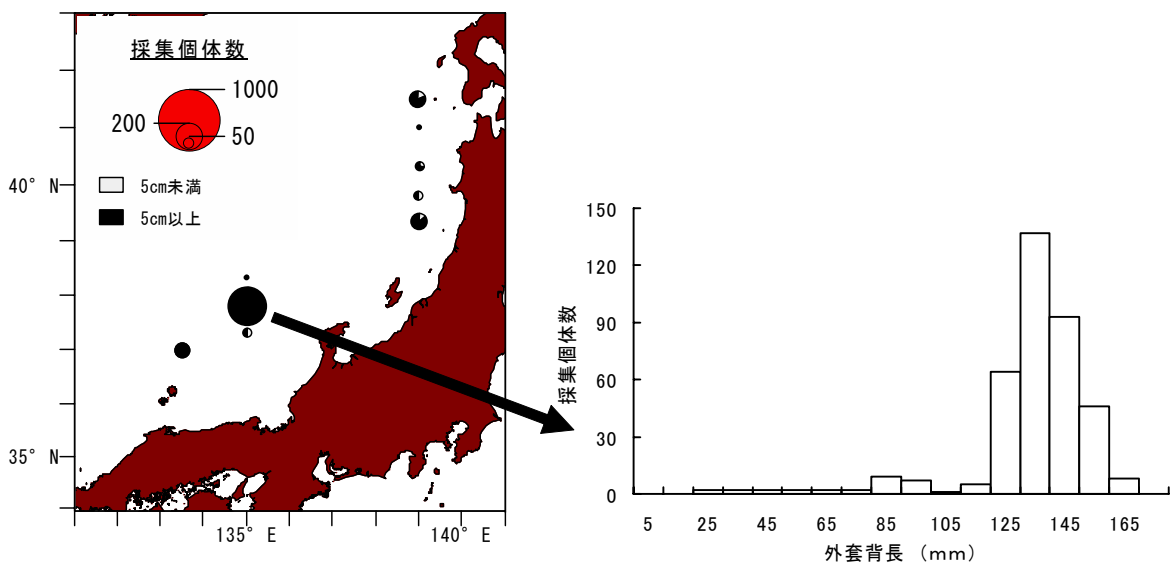


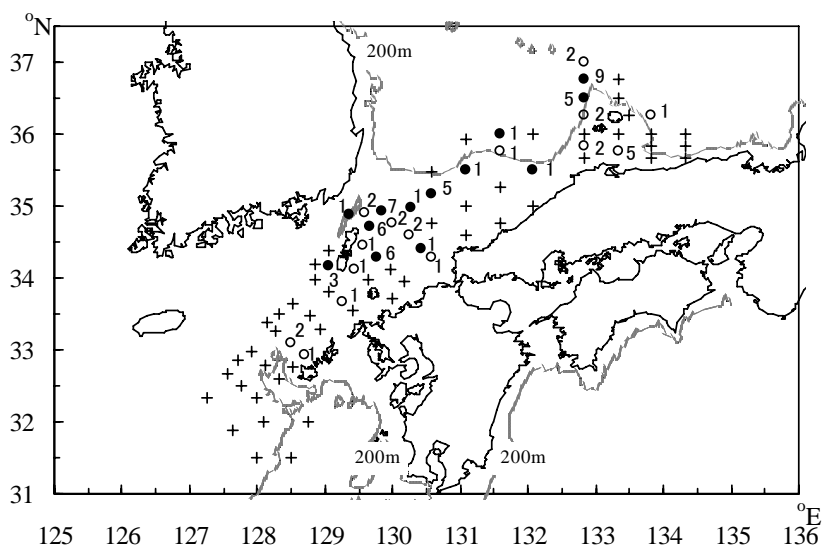
図4 LC ネットによる採集調査結果（今年、補助的に実施）。主要な採集地点における外套背長階級別の採集個体数を示す。

2) 昨年秋のスルメイカ幼生の分布量

日本海では5月下旬～10月に前年の秋～冬に生まれたスルメイカが主に漁獲される。したがって、前年秋～冬のスルメイカ幼生の分布量は、日本海へのスルメイカの来遊量を予測する資料となる。

2008年10月～11月に実施したスルメイカ幼生の分布調査^{*2)}では、隠岐諸島および対馬海峡付近を中心に採集された(図5)。しかし、1調査点あたりの平均採集個体数は1.01個体であり、1990年代以降の水準は維持しているものの、2007年(1.56個体)および2003年～2006年平均(1.86個体)を下回る低い値であった(図6)。

*2) 幼生の分布調査：口径45cmのプランクトンネット(網目0.33mm)を用いた採集調査。各調査点で水深150mまでの鉛直曳によって主に外套背長1～3mmのスルメイカ幼生を採集する。



孵化直後のスルメイカ幼生
(外套背長約1mm)

図5 2008年10月～11月におけるスルメイカ幼生の分布調査結果

○幼生が採集された調査点、●孵化直後の幼生が採集された調査点、+幼生が採集されなかった調査点、
図中の数字は各調査点における採集個体数。

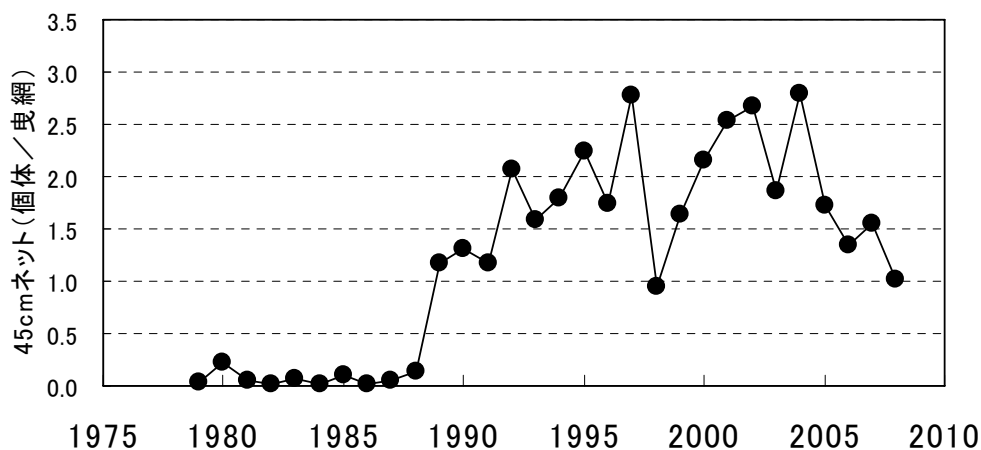


図6 スルメイカ幼生の1調査点あたりの平均採集個体数の経年変化

2. 日本海における海洋環境

平成 21 年度第 1 回日本海海況予報^{*3)}によると、3 月の表面水温は概ね「平年並み」～「やや高め」であり、隠岐諸島北西海域では「かなり高め」～「はなはだ高め」であった。水深 50m の水温は「やや高め」であった。今後（4 月～6 月）は、対馬暖流域の水温は表面および水深 50m とともに平年よりも「やや高め」で経過すると予測されている。

*3) <http://abchan.job.affrc.go.jp/gk21/20090408.pdf>

3. 日本海におけるスルメイカ漁況の経過

日本海では、1 月～3 月は主に冬季発生系群が漁獲されるが、3 月中・下旬以降は春～夏に生まれたスルメイカが漁獲対象となり、山陰以西を中心に予報期間の前半（5 月）まで漁獲対象となる。2009 年の日本海西部（福井県から長崎県）の漁獲量は、1 月および 2 月は 2008 年および近年平均を下回ったが、3 月は近年平均を下回るものの、昨年を上回る値で経過している（図 7、図 8）。

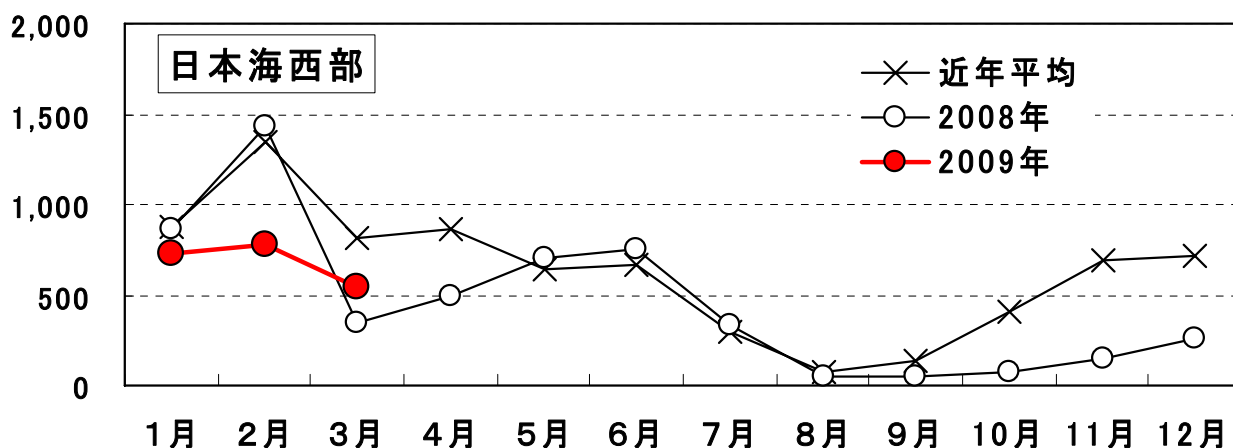


図 7 日本海西部（福井県～長崎県）におけるスルメイカの月別漁獲量。各県試験研究機関集計資料より作成。

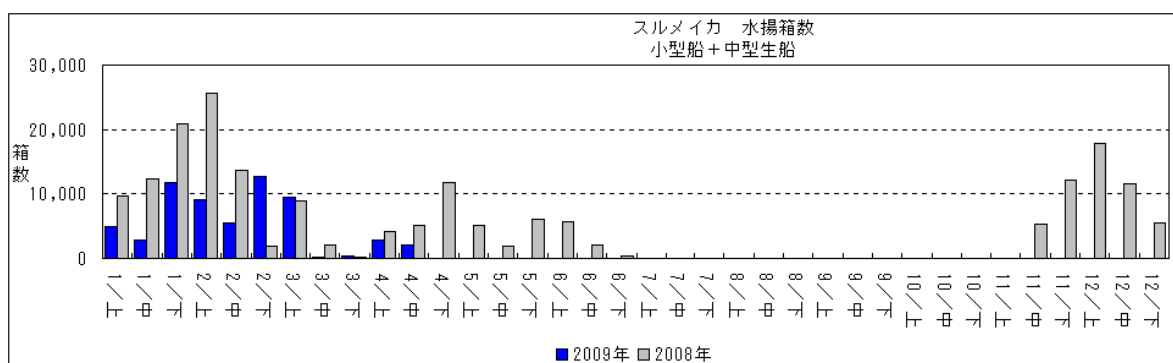


図 8 鳥取県（境港）におけるスルメイカの漁獲量

鳥取県水産試験場のホームページ

<http://www3.ocn.ne.jp/~tthome/sakairyomoyou/sakairyomoyou.htm> より

参 画 機 関

北海道立中央水産試験場	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	鳥取県水産試験場
秋田県農林水産技術センター 水産振興センター	島根県水産技術センター
山形県水産試験場	山口県水産研究センター
新潟県水産海洋研究所	長崎県総合水産試験場
富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	社団法人 漁業情報サービスセンター
石川県水産総合センター	水産庁 増殖推進部 漁場資源課
福井県水産試験場	独立行政法人 水産総合研究センター 北海道区水産研究所
京都府農林水産技術センター 海洋センター	東北区水産研究所 日本海区水産研究所